



# 町の話



## ご長寿 おめでとうございます 田中久之助さん 満100歳を笑顔でお祝い

5月25日に、この日満100歳の誕生日を迎えた田中久之助さんのもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。旧飯詰村出身の田中さんは、4人兄弟の末っ子として生まれ、80歳ころまで家業の農業に携わり、平成5年から町内の特別養護老人ホームに入所しています。松田町長から「健康の秘訣は何ですか」と尋ねられた田中さんは「胃を壊さないこと」と答え、ご自身の趣味である宝くじの購入に触れて「当たるべかあ」と笑顔で切り出し、贈呈式に駆け付けた親族や入所者の笑いを誘っていました。田中さん、満100歳のお誕生日おめでとうございます。

## 「湧・希」復興への願いこめて 金沢小学校児童が田園アートに挑戦

6月2日に金沢小学校（加藤悦子校長）の3～6年生児童58名が道の駅「雁の里せんなん」西側の田んぼで田園アートの田植えを行いました。田園アートは町の「うりこめ美郷応援事業」の一環で、今年で4年目になります。今年は美郷町の清水をイメージした「湧」と希望の「希」の2文字に挑戦。東日本大震災の復興に向けて「希望が湧いてほしい」という願いも込められています。また、注目度をさらに高めようと美郷米をPRするウサギのキャラクター「マイミーちゃん」のイラストにも挑戦しました。田園アートは7月上旬から8月中旬にかけて見ごろを迎えます。お近くをお通りの際は、ぜひお立ち寄りください。



## 迫力のある演奏に大興奮 自衛隊音楽隊コンサート

6月12日に町公民館で陸上自衛隊東北方面音楽隊のコンサートが行われ、会場を訪れた約400名が演奏に聞き入りました。音楽隊の皆さんは震災後、各地で慰問コンサートを行っており、今回のコンサートでも「がんばろう東北！がんばろう日本」をテーマにユーモアあふれる演奏で聴衆を魅了しました。コンサート前半には「大いなる秋田」が演奏され、町コーラス隊の大合唱とともに会場を感動で包み込みました。アンコールで演奏された「ふるさと」では、コーラス隊のほか、聴衆も立ち上がって歌い、会場が一体となりました。

## 思いやりの花 大きく育てよう 町内小学校で「人権の花」の苗植え

花を育てることで命の大切さや思いやりの心を育ててもらおうと「人権の花」運動が行われ、人権擁護委員の皆さんや「みさぼーたー」が町内の小学校を訪問して子どもたちと一緒にベゴニアやサルビアの苗を植えました。このうち千屋小学校では人権擁護委員の高階昭男さん（黒沢）が「花の苗が根付いて立派に育つ姿を見ながら、思いやりの心を持って学校生活を送ってください」と子どもたちに向けて呼びかけました。児童たちはベゴニアの苗を手にとると、ひとつひとつ丁寧に植木鉢に植えていました。



## 森林の役割を学びました 小学生が七滝山にブナの苗木を植樹

6月21日に六郷東根地区にある七滝山に町内の小学4年生をはじめ、保護者の皆さんや町議会議員など約250名がブナの苗木150本を植樹しました。植樹事業は町の大切な水資源を育む水源涵養林の保全と、子どもたちに森林の果たす役割などについて知ってもらおうと行われています。児童たちは仙北東森林組合の職員から説明を受けた後、育成をよくするために土に炭の粉を混ぜてから1本1本丁寧に植えました。植樹の後に大台野広場で行われた「森の水の学習会」では、丸太をのこぎりで切ってコースターをつくりました。閉会式では各小学校の代表が1人ずつ感想発表を行い、仙南東小学校4年の佐藤怜さんは「みんなと楽しくブナの木を植えることができました。大人になったらどのくらい大きくなっているか見に行きたいと思いました」と感想を述べました。

## 故郷を懐かしみ思い出話に花を咲かせる 美郷町仙南ふる里会

6月5日に東京都内の会場で「第24回美郷町仙南ふる里会」総会・交流会が開かれ、松田町長、高橋議長ら来賓13名と会員66名が出席しました。交流会では、5月に大相撲の十両に昇進した美郷町出身の華王錦関がお祝いに駆けつけるサプライズもあり会場を沸かせました。会場では美郷産品の物販や地酒、ニテコサイダーが振舞われ、故郷を懐かしみながら思い出話に花を咲かせました。

### 関東圏の三つの会の統合にむけた協議の開始を提案

総会では、町から平成24年度の中学校統合を機に、同校の卒業生が旧町村の垣根にとらわれない受け皿のもとで交流を図り、会員の方々も交流を一層拡大していくことができるよう、関東圏の三つの会の統合を視野に、そのための協議や準備開始につ



いての提案を行い、会員の皆さんから賛同をいただきました。今後、7月に開催予定の千畑ふるさと会、在京六郷会総会においても同様の提案をしていきます。

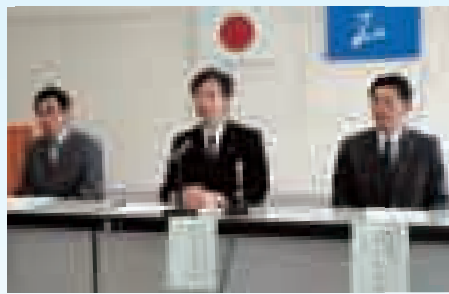
問●町商工観光交流課 交流・商工班 ☎0187(84)4909

## 寄贈ありがとうございました 佐々木永治さんが町に現金10万円を寄付

このたび、佐々木永治さん（熊野）から町に現金10万円の寄付をいただきました。いただいた寄付金は町の社会福祉充実のために活用させていただきます。ありがとうございました。

先日、金沢西根地区の神社のお祭りがあり、亡父の姉妹が実家に集いました。毎年の恒例です。なかなか一堂に介する機会がないようで、四方山話に花を咲かせていました。その中で私の祖父と父、そして私の類似点の話がありました。

昨年少しがんばったダイエットのおかげで、しばらく同じ体型を維持している私は、最近も「痩せたな」と言われ



▲町有空き施設への企業誘致が決定し、報道陣を前に記者会見をする松田町長（6月6日）

# 風

## 「遺伝と感動と実践と」

美郷町長 松田 知己

することがあります。「以前いくら太っていたんだ」と思いながら「頬がこけたからだろうな」と自分では分析しています。しかしこれは、これから太ったとしても変わらないだろうと思います。祖父と父からの遺伝だからです。仏間にある遺影がそう語っています。一方、「これだけは勘弁して」というのが髪の毛です。これは何とか遺伝から逃れたい思いです。

さて先日、別の意味で遺伝子を実感することがありました。こちらは秋田県民としての遺伝子の実感です。きつとご来場された方も同様だったはずですが、町公民館で開催した陸上自衛隊東北方面音楽隊コンサートでの『大いなる秋田』第三楽章と第四楽章。久しぶりに聞きました。ぼんやりしていた秋田県民としての遺伝子をピリッと刺激されました。「俺はやっぱり秋田県民だ」という自覚とともに「よし秋田県民がんばるぞ」という力が湧いてきました。原発事故の見通しや国政の体たらくなど、なんとも力のない状況でしたが、改めて「批判よりも自分ががんばれ。それが秋田県民だ」という喝を入られた感じでした。書家であり詩人の相田みつを氏に「感動とは感じて動くこと」という作品があります。もらった感動を実践につなげる価値観に立つならば、やはり動くことが大切です。しかし、将来を思慮して「変化」を選択しても、全員が同じ価値観に同時に立つことが難しいのも現実。そこで発揮されるのが、県民の代表的な遺伝子「粘り強さ」。難しい課題ほど粘り強さが必要だろうと思います。現在の難しい課題の一つ、それが赤字軽減に向けた町内3ヶ所の温泉の経営統合問題。いずれ具体案をまとめて皆さんに提示いたしますが、納豆を食べながらがんばっているところです。